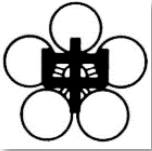


＜校訓＞白梅の においゆたかに 明るく強く 毎日必ず 一步前進



# 輝く未来へ

教育目標「自ら学び 創造する生徒」「豊かな心で 思いやりのある生徒」「ねばり強く 健康な生徒」

板橋区立加賀中学校  
学校だより  
平成 30 年度 第 14 号  
平成 30 年 11 月 14 日  
校長 水谷 智子

## 60周年記念式典 無事終了

11月3日（土）に本校創立60周年記念式典が行われました。当日は、お天気に恵まれ、来賓131名を迎えて盛大かつ厳粛な式典になりました。校長式辞、来賓祝辞、生徒代表挨拶（S.T.さん）に続き、「時を越えて」の記念合唱や校歌合唱で、伝統ある加賀中の「感謝」と「決意」を皆様にお伝えしました。



（前略）さて、創立から六十年という歳月を経て、学校を取り巻く社会の状況は大きく変わりました。少子高齢化、情報化、グローバル化…。人工知能AIが社会生活の様々な分野に進出して、人々の暮らしや考え方の多様性は広がっており、近年は、さらに変化のスピードが増しています。一方、地球規模での気候変動により、これまでに経験したことのない厳しい状況が次々に生まれてきています。

このような変化の激しい時代、「持続可能な社会の担い手」が求められている今、「種の起源」を著したチャールズ・ダーウィンの残した次の言葉が思い起こされます。「最も強い者が生き残るのではなく、最も賢い者が生き延びるのでもない。唯一生き残ることができるのは変化できる者である。」人は環境によってつくられますが、環境に働きかけ、環境を変える力も持っています。

加賀中学校は、未来の社会を創造する主権者として、基礎学力をしっかりと身に付け、それを活用して、自ら課題意識を持ち、主体的に物事にに関わり、他者と協働して課題解決に向けて行動する。そのような「自立・貢献・共生」できる心豊かでたくましい生徒の育成を目指します。「今」「この」子供たちに何が必要かを考え、変えるべきところは変え、学校全体で取組んでまいります。しかし、学校だけでできることには限りがあります。今年度、本校は「板橋区コミュニティ・スクール導入推進校」の指定を受けました。コミュニティ・スクール推進委員会での地域の方々との熟議を通し、皆で知恵を出し合いながら「地域とともに歩む学校」づくりを進めていきます。そして、義務教育九年間の見通しを持って小中一貫教育を推進し、白梅学びのエリアの子供たちを育てていきます。今後は、更に、地域から学び、学んだ力を地域に活かす取組みを進め、地域に貢献できる加賀中学校でありたいと思います。

加賀中学校は良い学校です。しかし、良い学校は初めからあったものではありません。「良い学校を創ろう」という思いを持った生徒、教職員、保護者、地域の皆様、本校に関わる全ての皆様が、それぞれの思いを持ち寄り、それぞれにできることを実践してきた、その六十年分の積み重ねの上に、今日の加賀中学校があるのです。

「白梅の におい豊かに 明るく強く 毎日必ず一步前進」 この校訓を胸に刻み、これからも進んで参ります。これまで、加賀中学校を築いてくださった皆様に、改めて、深く感謝申し上げますと共に、輝く未来に向けて力強く歩み続けることをお誓い申し上げ、式辞といたします。

平成三十年十一月三日

東京都板橋区立加賀中学校長 水谷智子



## ◎平和のつどい

11月2日（金）に板橋区文化会館で「平和のつどい」が行われました。会場の全員で、板橋区平和都市宣言を行った後、中学生平和の旅の参加生徒による発表がありました。

広島・長崎平和の旅には、区内全22中学校からそれぞれ一名ずつが参加しました。本校からは、広島平和の旅には2年生のF.M.さん、長崎平和の旅には2年生のS.K.さんが参加しました。二人は、白梅祭の時にも報告してくれましたが、改めて板橋区の全中学校の代表生徒が集い、平和の旅での学びを発表してくれたことは、板橋区の未来に向けた力強い発信であったと思います。みずみずしい感性でつかんだ平和への思いを、皆で共有することに価値があるといえるでしょう。平和の旅の感想文集から、本校の二人の感想を紹介します。



### **I think. I say. I do.**

F.M.

（前略）瀬越さん曰く「私は、原爆を投下したアメリカを憎いとは思わない。戦争そのものに怒りと憎しみを抱いている。平和な世の中にするために必要なのは、“I think. I say. I do.” 考え、発言し、実行することだ」私たちは今「考える」というところで止まってしまっているのではないか。/ 「戦争はしてはいけない」と考えるだけでなく、それをみんなに訴え、自分のすべきことを実行することが大切だ。/ 戦争は英語で“WAR”と言う。これは“We Are Right.”「私たちは正しい」という文の頭文字をとってつくられたものだ。つまり、戦争とは、人間の自己中心的な考えにより生まれるものなのだ。この世界は何十億人もの人間で成り立っている。各々の心が平和であればそもそも争いは起こらないだろう。では、その平和な心とは何か、私は相手を尊重する気持ちだと思う。誰かが行動を起こすとき、それには必ず理由がある。その理由を主観的にとらえるのではなく、相手を尊重する気持ちを大切に耳を傾けてあげる。そして、それを踏まえての解決策を世界規模で考えていくことが平和への近道だと思う。（後略）

### **核兵器廃絶宣言 ~ Our future is bright ~**

S.K.

（前略）では、平和とはなんなのか、核兵器をなくした世界はどうなるのか。僕の考える平和とは、「お互いが自らの力を誇示しようとせず、勝ち負けではなく進化を求めること」だ。自分の力を相手に認めさせるために武力行使をすれば、戦争はこの世の中から無くなることはない。相手の力を認め、吸収して自分も成長していく、人間は他人と比べたがるが、比べるだけでは進化していかない。自分に足りないものを自覚し、相手から学ぶことで人は進化していくと思う。このように一人一人が進化していけば、いずれは核兵器のない平和な世界へと進んでいくと思う。/ 今現在が世界の成長の果てだろうか。現代を生きる僕たちには未来のことはわからないことだらけだし、世界はこれからも進化していくと思う。進化した世界の先が、核兵器に恐怖心を抱く人や苦しむ人がいない世界になってほしいと思う。そのために、地球上から核兵器の数をゼロにすることが大切だと思う。よって、僕は自分自身に核兵器廃絶宣言をする。「僕は長崎平和の旅を通じて、原爆、核兵器の恐ろしさを改めて痛感した。もう二度と核兵器が使われないように。そして、長崎が最後の被爆地になるように核兵器の酷さや平和な世界の重要性を後世に伝えていく。明るい未来のために。」